

harappa映画館
「3.11 —私たちは、忘れない。」
プレスリリース

開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2008年より「まちなかに映画館を！」を合言葉に、弘前市の中心市街地にて、弘前市内で見る機会の少ない優れた映画をプログラムし上映しております「harappa映画館」。

今回のharappa映画館は、今年の3月11日で7年目を迎える東日本大震災および福島第一原発事故に関する県内初上映となるドキュメンタリー映画3作品を上映いたします。

また山形国際ドキュメンタリー映画祭で、3.11の経験と課題から生まれた作品を取り上げている、東日本大震災関連特集企画「ともにある Cinema with Us」コーディネーターを、2013年より務める小川直人さんを招いて、シネマトークも開催します。

事業名： harappa映画館「3.11 —私たちは、忘れない。」

(「平成29年度弘前市市民参加型まちづくり1%システム」対象事業)

開催日：2018年3月11日（日）

会 場： 弘前中三8F・スペースアストロ（〒036-8182 青森県弘前市土手町49-1）

主 催： NPO法人 harapp

問合せ： harappa事務局（担当：小杉）

〒036-8198 青森県弘前市元長町25 行人社2F

tel.0172-31-0195／fax.0172-31-0196

e-mail.post@harappa-h.org URL. <http://harappa-h.org/>

タイムテーブル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

10:30『祭の馬』

13:00『被ばく牛と生きる』

15:30『息の跡』※上映後シネマトークあり

上映作品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

祭の馬



©2013記録映画『祭の馬』製作委員会

監督：松林要樹 / 2013年 / 74分

黒鹿毛の牡馬ミラーズクエスト。1勝もできずに地方競走馬登録を抹消された彼は、引退し福島県南相馬市で余生を送ることになった。そして、3月11日を迎える…激しい津波の濁流から生還し、福島第一原発の事故による飢えと渴きの中で生き延びた彼を、映画作家・松林要樹が追い続ける。震災直後の福島県相馬から、冬から春の北海道日高、そして相馬野馬追の夏へ。彼の運命を通して、私たち人間の運命を映し出すー。

被ばく牛と生きる



©2017 Power-I, Inc.

監督：松原保 / 2017年 / 104分

東京電力福島第一原発事故によって、福島県の酪農家は飼育牛を放置したまま強制避難を強いられた。牛舎に戻った酪農家は、大量の餓死死骸を目にする。その後、彼らに伝えられたのは、補償金と引き換えに生き残った牛たちを殺処分することだった。だが一部の酪農家は、出荷の当てのない被ばく牛と生きることを選ぶ。飼育牛の生命が、生存を許されたペットや祭りの馬と異なるものでないと主張することは、この国の農林行政と原子力行政に対する異議の表明でもあるだろう。

息の跡



©2016 KASAMA FILM + KOMORI HARUKA

監督：小森はるか / 2016年 / 93分

津波の爪痕が残る岩手県陸前高田市。種苗店「佐藤たね屋」の店主・佐藤貞一さんは、荒れ果てた土地に自力でプレハブ小屋を建てた。再開した店の仕事の傍ら、独学した英語で震災体験を書き記し、“The Seed of Hope in the Heart”という題名の本を自費出版する。英文を読み上げる佐藤さんの、朗々とした声が響く
—小森はるか監督が2011年3月から5年以上撮り続けた、種を蒔くように生きる一人のたね屋の記録。

ゲスト／小川直人



1975年生まれ。仙台市にある複合文化施設・せんだいメディアテークで映像文化に関する企画から始まり、最近はアーカイブ事業の基盤整備を担当するかたわら、有志で映画上映や本の編集などを手がける。東日本大震災後には、プロジェクトFUKUSHIMA!、山形国際ドキュメンタリー映画祭・東日本大震災関連特集企画「ともにある Cinema with Us」のコーディネートなど。

作品画像および予告編動画・・・・・・・・・・・・・・・・・

プレス用に劇場場面画像および予告編動画を提供いたしますので、御入用の際は事務局までご連絡ください。

harappa事務局（担当：小杉）

〒036-8198 青森県弘前市元長町25 行人社2F

tel.0172-31-0195／fax.0172-31-0196

e-mail.post@harappa-h.org URL. <http://harappa-h.org/>

